防災都市づくり NEWS

平成 21 年 12 月 13 日（日）　第 2 回ワークショップ開催

VOL. 2

浜竹一・二丁目で第２回防災都市づくりワークショップを開催

11 月 22 日に開催された第 1 回防災都市づくりワークショップに続き、第 2 回ワークショップが開催されました。今回は、「道路閉塞・火災を人の視点から考える」というテーマのもと、体験学習、ワークショップ等を通して、地域の防災都市作りについて考えました。特に、前回参加者に浜竹一・二丁目以外の方々にも参加いただき、幅広い議論が行われました。

＜第2回WSの内容＞

日時：12 月 13 日［日］9:00-12:00
場所：茅ヶ崎市役所
参加人数：19名

★体験学習
- 道路閉塞を体感
- 火災を体感

★ワークショップ
- 延焼シミュレーション
- グループ討議

体験学習

体験学習では、実際にブロック塀の倒壊やがれきによる道路閉塞、火災を再現し、体感してみました。

ワークショップの内容

体験学習や延焼シミュレーション（火災の燃え広がり方）の結果も活用しながら、4 班にわかれてグループ討議を行いました。

延焼シミュレーション（火災の燃え広がり方）

浜竹一・二丁目で出火した場合、どのように延焼していくのかシミュレーションを行いました。木造家屋や狭い道路が多いため、早い段階で初期消火を行わなければ、地区全域に火災が延焼する可能性があることがわかりました。

ワークショップ

A班

道路閉塞
- 地域内に一時避難場所が少ない。
- 地域防災マップを作成し、親や子どもに伝えることが大切
- 道路が閉塞しそうな道が多い。
  →塀や家の耐震化を促進しよう。

火災
- 消火器の場所がわからない。
  →回覧板で周知する。

中学生の意見
- 消火器の設置場所を回覧板などで地域に知らせられたら良いと思う。

B班

道路閉塞
- 塀の高さを低くしてはどうか。
- 耐震費用が高くて耐震できない。
- 個人の権利への配慮も必要。

火災
- 消火器の場所を確認しよう。

その他
- 地域のことをもっとよく知ろう。
- 一人一人の意識改革が必要。
- 敷地規制が必要。

中学生の意見
- 近所の人々との係わりや協力が大事

C班

道路閉塞
- 沿道に倒れそうなものをおかない。
- 地域内での協力が大切。他人の家を通り抜けて避難する方法もある。

火災
- 風向きによって状況は大きく変わる。
- 広域避難所にすぐに避難することは困難。

その他
- 松浪地区で良い先例を作って広げよう！
- 地域によって状況が異なるので、それぞれの地域で対応を考えることが必要。

D班

道路閉塞
- 倒壊したブロック塀を、お年寄りは敏捷に避けられないのでは。
  →自宅周辺の要援護者を知ろう。
- 行止り道路を通行できるようにする。

火災
- 地域防災マップの作成、改善、配布
- 日常生活の中での意識が大切
- 消火設備の増設

講評

●市民の力、地域社会の力が大切

災害に対してあまり強くない地域でも、意識の高い、備えのある地域社会であれば、きちんと災害に立ち向かうことができます。こういった議論を進める中で、すばらしい地域になるのではと思います。

●2 つの目を持つことが重要

今できる対策を考える“短期的な目”と、今は難しいけれど少し先をにらんで目指していく“長期的な目”の両方がとても重要。

●災害に弱いということは、まちの“資源”

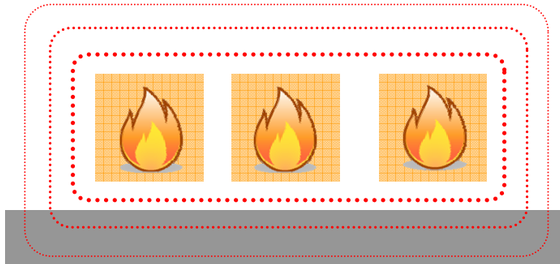
災害に弱いという“資源”があるからこそ、今回のように自分の地域について考えることができました。このようなことを続けることで、防災面だけではなく別の意味でももっと良い町になると思います。

発　行：茅ヶ崎市　都市部　都市政策課　　発行日：平成 22 年 1 月
ＴＥＬ　0467－82－1111（内線：2504）　ＦＡＸ　0467－57－8377

体験学習

4　輻射熱体感エリア

沿道建物の火災を想定
輻射熱を感じながら、道路を通過することは可能か
※輻射熱・・・火の熱さ



2　がれきはみ出しエリア

沿道建物が倒壊し、がれきがはみ出しことを想定
がれきを避ける、または乗り越える

ブロック塀

3　ブロック塀倒壊エリア

実大のブロック塀を設置。
実験前に、ブロック塀の重さなどを見る
その後、塀を倒し、インパクトを体験
ブロック塀倒壊後は、障壁として乗り越える

1　スタート地点

道路（幅員：4［m］）に発生した障壁を乗り越え、避難開始
※幅員は、モデル地区の生活道路が3～4［m］であることから設定

体験学習の感想

A班

◇道路閉塞
・自分の家の塀が心配（8段、40年）
・自転車への衝撃がすごい。
・古いブロック塀がばらけるのは危険
・ブロックの質、基礎の形、土の深さが重要

◇火災
・煙がすごい。
・防火の木が役に立つのでは（イチョウ）。

B班

◇道路閉塞
・鉄筋の入っていないブロック塀がいかに危険かがわかった。
・ブロック塀倒壊の衝撃が大きい。
・ブロック塀に人が挟まれたらと考えると恐くなった。

◇火災
・輻射熱の体感は、新しい体験だった。
・風向きによっては道を通るのが大変
・火の熱さに加えて、煙や灰もつらかった。

C班

◇道路閉塞
・夜間に起こると不安
・予想以上にブロック塀倒壊の衝撃は大きい。
・足、腰の悪い人は、歩くこともできないと思う。

◇火災
・風向きによっては状況も大きく異なる。
・思った以上に火力が強く、人助けなど大変
・燃えている近くは、通れない。
・火が出たら、自分の家を守ることしかできない。

D班

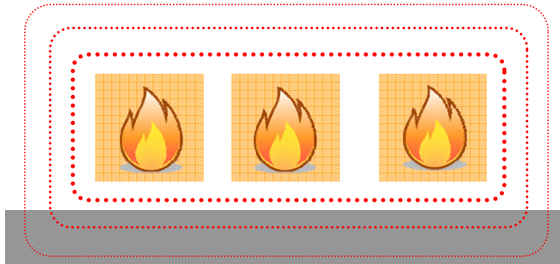
◇道路閉塞
・狭い道路や行止りが多い。
・古いブロック塀が多い。

◇火災
・火の近くに行くと熱い。
・消火器や消火栓の位置がわからない。
・昼間はお年寄りやご婦人しかいない。
・頭で考えるより体感する方がよい。

体験学習

4　輻射熱体感エリア

沿道建物の火災を想定
輻射熱を感じながら、道路を通過することは可能か
※輻射熱・・・火の熱さ



2　がれきはみ出しエリア

沿道建物が倒壊し、がれきがはみ出しことを想定
がれきを避ける、または乗り越える

ブロック塀

3　ブロック塀倒壊エリア

実大のブロック塀を設置。
実験前に、ブロック塀の重さなどを見る
その後、塀を倒し、インパクトを体験
ブロック塀倒壊後は、障壁として乗り越える

1　スタート地点

道路（幅員：4［m］）に発生した障壁を乗り越え、避難開始
※幅員は、モデル地区の生活道路が3～4［m］であることから設定

体験学習の感想

A班

◇道路閉塞
・自分の家の塀が心配（8段、40年）
・自転車への衝撃がすごい。
・古いブロック塀がばらけるのは危険
・ブロックの質、基礎の形、土の深さが重要

◇火災
・煙がすごい。
・防火の木が役に立つのでは（イチョウ）。

B班

◇道路閉塞
・鉄筋の入っていないブロック塀がいかに危険かがわかった。
・ブロック塀倒壊の衝撃が大きい。
・ブロック塀に人が挟まれたらと考えると恐くなった。

◇火災
・輻射熱の体感は、新しい体験だった。
・風向きによっては道を通るのが大変
・火の熱さに加えて、煙や灰もつらかった。

C班

◇道路閉塞
・夜間に起こると不安
・予想以上にブロック塀倒壊の衝撃は大きい。
・足、腰の悪い人は、歩くこともできないと思う。

◇火災
・風向きによっては状況も大きく異なる。
・思った以上に火力が強く、人助けなど大変
・燃えている近くは、通れない。
・火が出たら、自分の家を守ることしかできない。

D班

◇道路閉塞
・狭い道路や行止りが多い。
・古いブロック塀が多い。

◇火災
・火の近くに行くと熱い。
・消火器や消火栓の位置がわからない。
・昼間はお年寄りやご婦人しかいない。
・頭で考えるより体感する方がよい。